



Vol.42 September.2017

健康で元気なまちづくり～健康ポイント～

人口減少・超高齢化が進行する中で、生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送る、健康長寿社会を構築していくことが求められています。

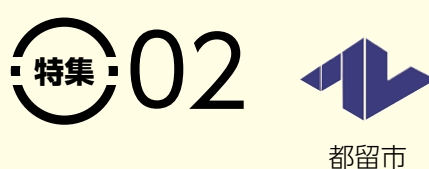
こうした中で、健康寿命の延伸とともに、医療費の適正化を図るため、住民一人一人の「健康」への意識を喚起するとともに無理なく楽しく健康づくりに取り組んでもらうため、個人の予防・健康づくりにインセンティブを提供する取組が実践されています。

今回の特集は、運動や検診などを行った人がポイントを受け取って景品などに交換する健康ポイント制度を県内で先駆けて取り組む4市の事例を紹介します。



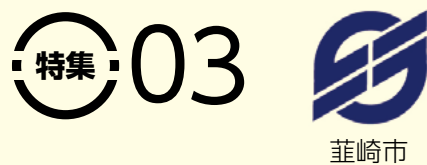
**ポイント貯めて健康貯金！
健康ポイントラリー**

富士吉田市市民生活部健康長寿課
課長補佐 木勢 美妃



**地域ぐるみの
健康づくりを目指して
健康ポイント事業の取り組みから**

都留市福祉保健部健康子育て課健康推進室
室長 分部 照美



**のばそう健康寿命！
貯めよう健康ポイント！**

富士川町保健課
主査 内藤 静香



**健康ポイント事業
皆さんの健康づくりを応援します！**

甲斐市子育て健康部健康増進課
係長 日本 修



富士吉田市

特集 01

ポイント貯めて 健康貯金! 健康ポイントラリー

富士吉田市市民生活部健康長寿課
課長補佐 木勢 美妃



市の紹介と事業の経緯

山梨県の東南部、富士山の北麓に位置し、市域は東西約11キロ、南北約23キロと南北に細長く、南側の富士山向かって徐々に標高が高くなっており、市街地は標高約650から900メートルに形成されている高原都市です。

古くから、富士山信仰と織物のまちとして栄えてきました。健康づくり施策としては、「市民が毎日健康に過ごせて、いきいきとその人らしく生活していくことができる」を目標に掲げ、事業を展開しています。本市においても、少子高齢化の進行や生活習慣病の増加による医療費の抑制が課題となっています。そのような中、市内の関係各課の職員をメンバーとした「健康づくりプロジェクト

事業の目的

健康ポイントラリー事業は、超高齢社会となった現在、若い世代から健康を維持するための心がけや行動をとるなどの「健康づくり」を習慣化し、元気で自立した高齢世代を迎えること、また、健康診断・がん検診・人間ドックなどの積極的受診により、病気を未然に防ぐことなどを目的に、楽しみながらできる「健康づくり」として平成26年度にスタートしました。

事業の内容

20歳以上の市民を対象に、健康診断やがん検診などの受診を必須項目とし、自分に合う運動教室やイベント等へ参加することでポイントが獲得できます。同じ項目ばかりでなくバランスよくポイントを貯めていただくよう

富士吉田市民のみさんへ

健康ポイントラリー

50ポイント達成者賞品に500円分プレゼント!

100ポイント達成者賞品に豪華記念品が待っています!

健康ポイントラリーの目的は?

健康ポイントラリーの流れの説明

お問い合わせ

富士吉田市役所 市民生活部 健康長寿課 健康推進室
〒403-8601 富士吉田市下吉田6-1-1 TEL 0555-22-1111(内線794・796)

実施にあたり工夫したこと

昨年度は、事業開始3年目ということで特に色々な場面において、周知の徹底を図りました。市の特定健診やがん検診の受診者には、健診会場において参加を勧奨してその場でポ

に、項目ごとに付与するポイント数に上限を設定してあります。

参加特典として、50ポイント貯めると「クオカード500円分」を申請により全員に贈呈します。また、100ポイント以上貯めると抽選により、ギフト券・ホテルペア食事券・健康用品セット等を贈呈するなど、楽しみながら健康づくりができる内容となっています。





イントを付与したり、土・日に開催の健康に関するイベントや当課で実施している様々な事業でも周知・勧奨し、ポイントを付与したりクオカードの交換も行うなど、参加しやすい環境整備にも努めています。

例えば、ポイントラリー参加者の中には、仕事等により平日の教室等に参加できない方も多いことから、日頃から健康意識を高めてもらえるように、市内のスポーツ施設やゴルフ練習場などの利用をはじめ、保健推進委員を中心とした「筋力パワーアップ教室」などでもポイントが獲得できるよう、民間施設や各種団体にもご協力をいただいて実施しております。



た合計歩数を記録する「チーム100万歩」や、たばこについての減煙や禁煙の生活改善に挑戦してもらう「チーム減煙」・「チーム禁煙」等もこのポイントラリーの対象としております。その中でも「チーム100万歩」は、90日間のチーム合計歩数が100万歩以上をめざすもので、参加者の多い事業となっております。今年度からは申込み時に10ポイント、100万歩達成者には合計歩数に応じて、さらに10～30ポイントを付与しております。平成26年度のスタート時点では127チームの参加でしたが、平成27年度には213チーム、平成28年度には、204チームと多数の登録があり、毎年続けて参加している家族や職場でのチームもあります。ポイントを貯める楽しさに加え、個人で取り組むよりチームで始めることで多くの方の健康づくりのきっかけ

につなげることができたと考えております。

また、子育てで忙しい若い世代に対しても、気軽に健康づくりに取り組めるよう、親子での体操教室や絵本の読み聞かせなど、子育て支援センターや図書館等で実施している事業もポイント対象としました。さらに、平成28年6月より、「カラダ」の健康だけではなく「ココロ」の健康（リフレッシュ）も大切であることから、理・美容室や飲食店（健幸づくり推進店）、薬局（血圧・塩分チェック）もポイント対象店として登録していただき、身近なお店でもポイントが獲得できるように事業を拡大しました。

今後の展望

本事業は周知を徹底したことにより、参加者数は年々増加しており、初年度約1,800名、翌年度約2,900名、平成28年度以降は4,000名を超えました。

事業当初の目標数である20歳以上の人口の概ね10%の参加者数を達成しましたが、参加者のうちどれだけの方がこの事業の目的である健康づくりを習慣化しているか、また、特定健診・がん検診等を継続して受診しているかなどを評価・分析する必要があります。

今後も、若い方から高齢の方まで多くの方が参加しやすい事業をめざし、楽しみながら自分の健康に関心を持ち、ポイントと共に「健康貯金」を貯めていただこう、創意工夫して事業を進めていきたいと考えています。

特集 02



都留市

地域ぐるみの 健康づくりを目指して 健康ポイント事業の 取り組みから



都留市福祉保健部健康子育て課健康推進室
室長 分部 照美

都留市の紹介

都留市は山梨県の東部に位置し、日本「新・花の百名山」に選ばれた三ツ峠山、二十六夜山など、それぞれ個性ある山々に囲まれた、豊かな緑と清らかな水の溢れる自然環境に恵まれた城下町の面影を残す小都市です。

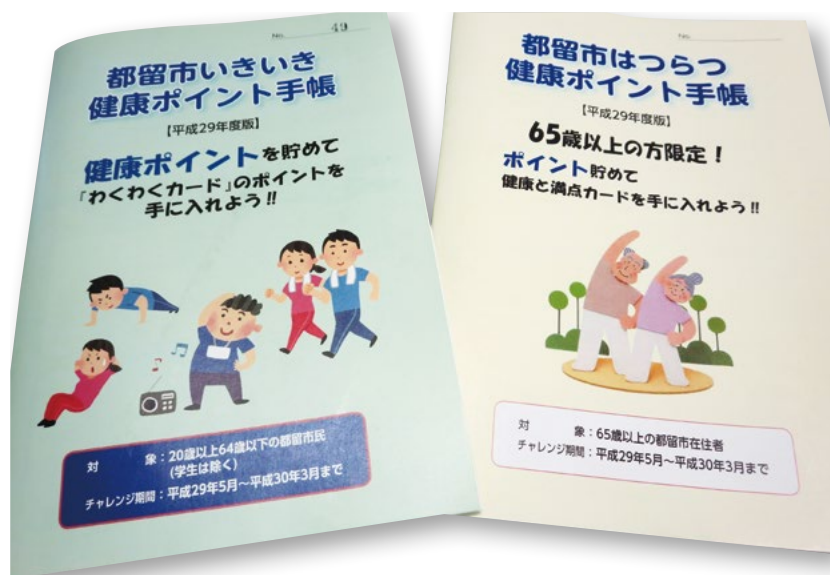
古くから「甲斐絹」に代表される織物のまちとして知られ、江戸時代には俳聖 松尾芭蕉が本市に滞在し、名句を詠み、蕉風俳句の開眼を果たした地とも伝えられています。現在は、夢の交通機関リニアモーターカー実験線の拠点基地があることで知られるとともに、人口3万1千人規模の都市では全国唯一とも言える公立大学法人都留文科大学を擁し、また、健康科学大学および山梨県立産業短期大学校もあり全国各地から多くの学生が

集い研鑽に励む、学術と文化、芸術が融合した知的風土を醸し出すまちです。

本市では、「第6次都留市長期総合計画」を策定し、その中で本市のめざす将来像（基本構想）を「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」と定め、いつまでも元気で、生涯を通して、きらめくような人生を送ることができると目指すこととしています。この計画の中心として「都留市版生涯活躍のまち（CCRC）構想」を掲げ、東京圏をはじめとする高齢者等が、希望に応じて移住し、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じたケアを受けられるまちづくりに、先駆的に取り組んでいます。そのことにより、平成28年6月に、政府より「生涯活躍のまち」構想の全国先進7団体の一つとして、選定されました。

「都留市健康づくりポイント事業」の取り組み

都留市では平成28年1月から、市内の65歳以上の要介護認定を受けていない方を対象に生活調査（身体的生活機能、精神的機能など）を行い、その結果を全国の値と比較したところ、いずれの項目においても介護が必要な状態になる可能性の高い高齢者の割合が多い傾向にあり、介護予防のための健康づくりを推進することが重要であることがわかりました。その結果も踏まえ、高齢者の健康づくり施策の一環とし、平成28年度より「都留市



健康づくりポイント事業」を65歳以上の高齢者を対象に実施しました。また、平成29年度からは、朝食の欠食、運動不足、メタボ該当者の増加傾向など、青年期・壮年期世代の健康課題に対し、生活習慣を見直すきっかけづくりとして20歳以上64歳以下の方にも対象を拡大しております。

この事業では、健康診断や市の健康講座、各種イベント、介護予防教室、高齢者の居場所づくり事業及びサロン活動などへ参加した場合と、自分の身体状況に合わせた日々の健康への取り組みに対して健康ポイントを加算



します。個々の活動や参加したものについては「健康ポイント手帳」を事前に発行し、その手帳（１年間使用できるもの）に記録していきます。加算された健康ポイントは、都留市商工会ポイント店会が発行している「わくわくカード」に貯まり、貯まったポイントを使って都留市商工会ポイント店会に加入している市内のお店で使うことができます。

健康づくりポイント事業を始めた当初は、高齢者が対象であり、手帳の発行のために来所することが難しいことが想定されたため、高齢者の身近な場所で開催される自治会や老人クラブ、協働のまちづくり主催の会等とタイアップして、健康ポイント手帳を発行しました。効果としては、「みんながするのであれば、やってみようかな。」と興味のなかった方も意欲的になったり、また、高齢者の口コミで様々な活動のグループからも発行依頼の声がかかるようになり、健康づくりの輪が全市へと波及していきました。わくわくカードへの加算においては、健康ポイント手帳を持つている方全員に加算日をハガキにて周知し、身近でできるように各地区を周るようになりました。わくわくカードにポイントが付くと「来年度も続けたい。」「楽しく続けられた。」という声が多く聞かれ、健康ポイント手帳を活用した健康づくりを継続されている方が増えています。また、20歳以上の若い世代の健康づくりへの取り組みにもつながり、健康ポイント手帳の発行部数が増えています。

今後は、生涯いつまでも健康でいきいきし



た生活を送るために、日々の食事・運動などの生活習慣の見直し・改善の取り組みの一つとして都留市健康ポイント手帳の普及に努めると同時に、正しい健康情報を発信し、健康づくりや介護予防等の支援をしていきたいと思っています。さらに、都留市商工会ポイント店会等と地域ぐるみの健康づくりを目指し、地域の活性化の一助となれればと考えています。

特集 03



市
市

のばそう健康寿命！
貯めよう健康ポイント！



市保健課保健指導担当

主査 内藤 静香

事業立案の経緯

長寿国である日本の中で、山梨県は男女ともに「健康寿命」が全国一長いという称号を得ました。その背景には、自然や農作物に恵まれた豊かな環境、また文化活動や無尽にいった、人との繋がりが充実していることなど、様々な良い習慣が影響しているのではないかとわれています。

健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とされています。健康寿命を延ばすことにより、健康で心豊かな生活を継続して送るためには、生活習慣病の発症や重病化を予防し、いつまでも健康を維持することが大切です。そのためには、運動不足や食べ過ぎといった不健康な生活習慣の改善、そして何より意識改

革することが不可欠です。

「いつまでも健康でいたい」そう思うことは当然のことであり、誰もが望んでいることです。健康でいられることは、本人だけでなく、家族にとっても幸せなことです。その幸せな生活を送るために、本市では、ウォーキングなどの健康寿命を延ばす様々なイベントを開催しています。

本市の特定健診結果においては、血糖値・血圧値・肥満度等の基準値異常者が県平均より高いという状況にあり、市国保疾病統計では高血圧・糖尿病が医療費の上位を占めているのが現状です。また、本市の健（検）診受診者数は毎年横ばい状況にあります。

このような問題を改善するため、市民が健康意識を高め、健康づくりを楽しく継続して取り組むための動機付けが必要であると考え、平成28年度より「健康ポイント事業」を実施しています。

事業の目的

健康づくりへの興味関心を喚起し、健康づくりへの意識を高める動機付けを図るため、健診（検診）受診やウォーキング等身近な健康づくりの実践者にポイントを付与し記念品を贈呈する「健康ポイント事業」実施しています。

健康づくりの実践者を増やすことで、病気の予防や改善を図り、将来的な医療費の縮減や健康寿命の延伸につながることを目的にしています。





事業の内容

がん検診と歯科健診、人間ドックなどの健診や市が実施するウォーキング事業、スポーツクラブなどの運動教室、公民館、各種団体や個人またはグループでの健康づくりへの取り組みや民間施設利用による実施についてポイントを付与しています。(ポイント対象メニューは別表を参照)

対象者を20歳以上の市民とし、健康ポイントの対象となる事業に参加した方へポイントを付与し、合計100ポイント以上を達成した方に記念品として、1,000円分のクオカードを贈呈しています。

事業の実績

本市では日ごろから体を動かす機会に触れてもらうために、運動の中で初心者でも気軽に行うことができる「歩く」をテーマとした健康事業として様々なウォーキングイベントを開催しています。そのひとつとして、春と秋に「武田の里ウォーク」を開催しております。本年の春の武田の里ウォークは、「大村智博士が称賛する郷里の展望を楽しむ」をテーマに、ノーベル医学・生理学賞

—実施期間—

平成29年4月1日

平成30年3月31日

健診とウォーキングで
伸ばそう健康寿命
貯めよう!!

健康
ポイント

【ポイント達成受付 記念品贈呈】
平成29年7月3日～
平成30年4月10日
(窓口：保健福祉センター)

【対象者】20歳以上の韮崎市民の方

参加方法

ステップ1 健康ポイント手帳を受け取る。
(配布窓口：保健福祉センター・市民生活センター・市民生活センター総合受付・子育て支援センター・老人福祉センター・東三三三センター・市民生活センター・市民生活センター・市民生活センター)

ステップ2 ポイント対象メニューに参加、挑戦してポイントゲット!!

ステップ3 100ポイント以上達成後、保健福祉センターに健康ポイント手帳を提出し、記念品ゲット!!
(保険証をご持参ください。また、必要に応じて※1～4をご持参ください。一人につき年度1回のみ)

【ポイント対象メニュー】

ポイント対象メニュー	ポイント(P)数	ポイント獲得方法	
		保健福祉センター窓口で健診結果・実績記録等を確認し、当日受付時に押印します。	当日受付時に押印します。
A 健康診断(市や職場等の健康診断・特定健診・人間ドック)	30P(1回まで)	○※1	○(結果報告書)
B 各種がん検診(市や職場等の健康診断・人間ドック)	30P	○※2	○(結果報告書)
C 歯科健診(市総合健診・医療機関・虫歯予防イベント)	20P	○※1	○
D 武田の里ウォーク(4月)	20P		○
E 武田の里ウォーク(9月)	20P		○
F いらさきいきいきウォーキング(3回)	1回20P		○
G 公民館や各団体等によるウォーキングや運動を中心とした催しや健康講座への参加	10P(2回まで)	○※3	
H 個人やグループによるウォーキングや運動(週1回以上を3ヶ月以上行う)	30P(1回まで)	○※3	
I ・NPO韮崎スポーツクラブやゆ〜ぶるにらさきフルプログラム等 ・民間団体等による運動を中心とした教室(週1回以上を3ヶ月以上行う)	30P(1回まで)	○※4	

※1健康診断結果用紙等、※2各種がん検診結果用紙等、※3実績記録票(健康ポイント手帳)、※4出席簿(健康ポイント手帳)等

<提出・お問い合わせ先>

韮崎市役所保健課(韮崎市保健福祉センター)

〒407-0024 韮崎市本町三丁目6番3号 電話 0551-23-4310 (FAX 0551-23-4316)



甲斐市では、平成28年度から「甲斐市健康ポイント事業」をモデル事業として開始し、今年度から本格実施をしています。
市民が健康意識を高め、楽しく継続的に健康づくりに取り組みきっかけづくりとして、

事業の取り組み

04

特集

甲斐市

健康ポイント事業

皆さんの健康づくりを
応援します！

甲斐市子育て健康部健康増進課
係長 日本 修

健康づくりの実践やその成果をポイント化し、貯まったポイントに応じて参加賞や景品などの特典を付与する事業です。
昨年度のモデル事業では、241名の参加申請があり、年代別にみると60歳以上の参加が半数を占めており、若い年齢層の参加が少ないことが課題となりました。そのため、昨年度の検証を踏まえ、健康への関心の低い若い世代や働き盛り世代の健康意識向上を図るため、パソコン・スマートフォンからも参加できるようにシステムを導入しました。参加申請のために市役所まで来庁する手間と時間の短縮、時間や場所を気にせず気軽に健康づくりに取り組むこと、また、日々の健康管



ポイントの獲得方法には1. 必須項目と2. 任意項目が設定してあります。1. 必須項目は健康診断を受診することです。2. 任意項目は、(1) 甲斐市主催の健康づくり事業への参加、(2) 甲斐市主催以外のイベントや各種健康づくり教室への参加、(3) 健康ツールを活用した健康づくりの実践があり、それぞれポイントを獲得することができるようになっていきます。
その中でも、甲斐市主催の健康づくり事業では、各公民館等で行っている健康づくりに

ポイントの獲得方法等

理を身近なものと意識づけ、健康づくりの継続、定着化することを目的としています。

項目	1 (低)	2 (中)	3 (高)
1. 気分が落ち込み、やる気が出ない	☐	☐	☐
2. 集中力が続かない	☐	☐	☐
3. 睡眠が浅い	☐	☐	☐
4. 食生活が不規則	☐	☐	☐

「健康に関するチェックリスト」

関する事業のほか、母子を対象に児童館で行っている乳幼児教室なども対象としています。若い世代から高齢者まで、幅広い年齢層が参加する事業を対象とすることで、ポイント事業への参加をしやすくなるような工夫をしています。

また、健康増進計画策定時のアンケート調査より、市民の歩数が少ないことが甲斐市の課題としてあげられていることから「バーチャルの旅」と名付けたウォーキングコースを設定しました。甲斐市周遊（初級編）・甲州街道の旅（中級編）・東海道五十三次の旅（上級編）の3コースがあり、歩いた距離の累積でそれぞれのコースをクリアするとポイントが獲得できます。全コースを完歩することを目標にしている参加者もいます。

このように市内外の事業に参加したり、自分自身の健康づくりに取り組むことでポイントの獲得となり、ポイント手帳やシステムにポイントを貯めていきます。ポイントを貯める期間は9か月間で、参加者には途中で挫折することがないように、ハガキやメールで継続支援をしています。

また、今年度は甲斐市商工会と連携し、商工会加盟店で「健康に関するチェックリスト」をもらうことでボーナスポイントが獲得できる試みを始めています。

ポイント獲得期間終了後、ポイント交換期間内に手続きし50ポイントで参加賞、100ポイント貯めると抽選で景品をプレゼントしています。



スマートフォンからも取り組めるよ！

今後について

現時点での参加者は470人と予定人数にはほぼ達しており市民の健康づくりへの関心の高さがうかがえます。

今後は、さらに多くの若い世代に「甲斐市健康ポイント事業」に参加してもらえよう、新しいアイデアを取り入れながら健康づくりを甲斐市全体に浸透させていきたいと思っています。



バーチャルの旅・甲州街道の旅(中級編)

講演録

講演録
10



最近の政治経済情勢について

講師 高橋 洋一 たかはし よういち
—— 嘉悦大学教授 ——

平成29年2月2日に開催した「第32回山梨県市町村自治講演会」の講演要旨を掲載いたします。

まずは、トランプさんの話からしたいと思います。人の関心を呼ぶというのは難しいですが、良い悪いを抜きにして、トランプさんは人の関心を呼ぶのが上手いです。悪名は名無しより勝ると言いますが、流れ出た方が良いでしょう。トランプさんは、マスコミを経由せず直接SNSで情報を発信しています。トランプさんのツイッターをマスコミが見て、それを解説・報道している。国民としては、直接トラ

ンプさんのツイッターも見られるし、マスコミ経由からの話も見られるから良い事です。トランプさんが、大統領令を出す時、マスコミからは「乱発している」と言われますが、この大統領令は、日本だと政令と似ています。例えば、新しい元号を決めるのは政府の権限で、政令です。アメリカも同じで、トランプさんの公約は、時間が掛かる議会を通す話ではないで、大統領令でできる話が多いで

す。今まで大統領令が話題にならなかっただけで、オバマさんだってずいぶんやりました。また、中身がひどいと言われませんが、選挙で勝った人が公約を実行しているだけです。入国禁止の話で言えば、日本の入国の自由度は、先進国の中で下から数えて何番目という所で、日本の方がはるかに厳しく、トランプさんは日本みたいにやりたいんだと思います。

筋がよくなかったと思うのは国境税の話です。アメリカの大統領は、案外権限がなく、地方公共団体の首長さんの方が形式的な権限は大きいと思います。日本の内閣や地方の首長さんは、条例の提出権がありますが、アメリカ大統領は法案の提出権がなく、法案を決めるのは議会です。国境税という話を仕

組む時に関税法と、緊急関税の二通りありますが、新しく法律は作れないし、緊急関税も国際ルールがあつてそんなに簡単ではない。それよりも、大統領令でできる法人税などの手当の話

をした方が良かったです。日本はこれについても文句を言えません。租税法主義と言いますが、租税は国税庁通達でほとんど決まりますので、茶化して言うところ、租税は通達主義です。トランプさんもその辺を駆使してやったら、文句を言われなかったと思います。

アメリカ大統領は、予算の提案権もなく、議会で決めた話を拒否することだけしかできません。共和党のトランプさんが大統領になったことで重要なのは、上院・下院ともに共和党が握ったということです。二代表制は、ずれると非常に大変で、ヒラリーさんだったら完全にねじれます。恐らくヒラリーさんが大統領になったらアメリカの株価は下がっていると思います。トランプさんが言った政





策が、そのまま通りはしないけど、議会と大統領がにらみ合うことは多分なく、そこそここのところで話は終わります。

トランプさんは、元々TPPは離脱するというところで選挙に当選したのですから、TPP離脱は確実に行いますが、共和党は伝統的に自由貿易に賛成ですので、多分ご破算にはなりません。トランプさんは、アメリカのビジネスマンがよく使う言葉でデイル（取引）をしたいのです。TPPは、12カ国が集まって話

をするので、アメリカといえども12分の1になつてしまいます。交渉のやり方というのは2国間。2国間でやると圧倒的に力の差が出ます。TPPの中身を見ると日本は有利ですが、アメリカにとっては不愉快なので、TPPを辞めて俺にデイルさせるとトランプさんは言ったのです。TPPの今後は、多国間という要素だけが抜け、2国間でTPPをベースとして交渉することが予想されます。政府は受けるか受けないかなんて待ちの姿勢を取っているみたいですけど、これは大間違いで、先に言った方が勝ちです。途中でいろんな仲間を入れることはできますので、日本から2国間でやることを提案して、望ましい仲間、同じ英語圏のオーストラリアとニュージーランドを入れる。彼らは旧イギリスの関係の国ですから、アメリカより強いです。また、EUから出るイギリスは、どこかの自由貿易圏に入った方が有利なので、日米2国間の自由貿易にイギリスを入れるのもあると思います。トランプさんとともに交渉するには、こういう考えも必要だと思えます。

安倍さんは、トランプさんが当選した後に急遽電話して、ニューヨークで会談をしました。政治家というのはこういうのが重要です。あの会談を仲介した人は、私の友人のアメリカ人で村瀬というトランプ家の顧問弁護士の日系人です。安倍さんは、トランプさんにすぐ会いたかったようですが、外務省が全然連絡を

取れず、そこで村瀬が出てきます。彼は、日本語を勉強するために成蹊中学、成蹊高校に留学していたため、安倍さんもよく知っています。政治家は、官僚が何とかならない時は自分の持っている人的なコネクション、資産をフル活動というのは当たり前だと思います。これが韓国・中国と違う日本の立場です。また、安倍さんは、2月10日にトランプさんの別荘でゴルフをするそうですが、これはものすごい良い話で、アメリカ人にとってはプライベートで話をする機会は少ないのですが、アメリカのゴルフ場では、キャディーはいませんので二人で話ができます。安倍さんのおじいさんの岸さんが、総理になった後にワシントンでゴルフをしてアイゼンハワーと仲良くなったのと全く同じようなパターンになると思います。

直接国民に接するツイッターやフェイスブックは、政治家にとって大きなツールです。今までは、番記者をつかまえて情報を流してもらい制度を作っていましたから、政治家にとつて記者、マスコミは非常に丁寧に扱うべきものでした。しかし、SNSを使うとマスコミ抜きで国民をつかまえられる。入国禁止の話は、国民に6割ぐらい支持があります。政策は5割を超えたら勝ちです。どんな政策でもコアな賛成が1割か2割、コアな反対が1割か2割で、間の6、7割のどうでもいい人をどのように持っていくかだけですが、トランプさんはこれに成

功して、国民から支持を得ていると思えます。

トランプさんの周りにいる人の情報から考えると、トランプさんは賢くて、全部計算尽くでやっています。トランプさんはこんなことも知らないと思つて話をしたら、交渉は絶対負けてしまいます。例えば、トランプさんは、経済で個別企業の話はしますが、これはすごく合理的です。経済政策の中心は、はつきり言って雇用です。国レベルで雇用を維持する政策は、金融政策になります。失業率を下げる、有効求人倍率の平均値を上げる時には、金融政策しかできないのです。こういう話を日本のマスコミは全くとれません。ただ、雇用を作るのには限界があります。物価と失業率というのは逆の関係で、物価が上がっている時は景気がいいので失業率は下がりますが、ある程度下がるともう下がらない、これを構造失業率と言います。アメリカでは、この構造失業率が大体4・5%から5%の間で、すでにアメリカはそこに入っています。これからいくら金融政策をふかしたところで、あまり失業率が下がらないことを知っているからこそ、トランプさんは、失業率を下げるという言い方をせず、雇用を作ると言うのです。それも、国全体で何十万人の雇用を作るのとはもう無理で、個別企業に何千人かというレベルしかできないため、成果が見えやすい個別企業の話をするのです。極めて練られた合理的な戦略です。

日本人でうまく対応した人は、ソフトバンクの孫さんです。トランプさんのことを直接知らなくても、知り合いの知り合いの知り合いぐらいいで行ってしまおう。こういう行動力は必要で、逆にトヨタの社長は、言われてからやるからイメージも悪いし、数字もでかくなってしまうのです。先に言うことが新しい交渉スタイルだと思っています。

TPPの話に戻すと、TPPをやる時に日米安保を一緒にやった方が日本としては有利になります。日米安保の日本の負担は、トランプさんの意見を満額受けたって国家予算の100兆円から見れば、たかだか2,000億円です。仮に2,000億円出したところで、地方の公共事業をやっているようなものですから、痛くもかゆくもありません。日本が非常に劣位になっている日米地位協定も交渉できてしまいます。または、貿易を負けろということもできます。さすがにアメリカもこれを交渉サイドに乗せたら不利になることに気が付き、国防長官が来日する時には、防衛負担費の話をしないこととしました。話をしないと例えば日本人が喜ぶと思うからこそ交渉のテクニクです。なので、国防長官から話がないのなら日本から交渉しようと言うべきです。交渉はたくさん材料があった方が有利ですから、貿易もやるなら日米安保条約等の負担も入れた方がトータルでは有利です。デールを拒否したなんていうことになったら沽券に関

わるので、トランプさんはこの交渉を拒否できません。

「日本は為替操作をしている」とトランプさんが言ったことで、為替のマーケットは円高に振れて大騒ぎです。これに対して財務官は、「日本は二千年前から為替介入をしたことはありません」という説明をしました。交渉する人に説明というのはだめです。事実でも、「じゃあその前はどうかだった」と言われて、向こうのペースにはまってしまう。日本人は説明して理解してくれと言いますが、説明は上から目線なので、交渉には全く向かないのです。

為替の短期の動きは、サイコロの目と同じで確率の分野から言う予想もできず、サイコロの目は6分の1ぐらい出るという予測しかできません。でも、1年か2年先はこうなりそうというのは予想できます。サイコロは、何百、何万回と振ると大体6分の1ずつ出ます。偶然要素がなくなると理論の姿だけが出る。為替の理論とは、2国の交換比率のことで、日本の円の総量と、アメリカのドルの総量を割り算すれば、大體交換比率になります。円の総量は約400兆円、ドルの総量が4兆ドルぐらいなので、1ドル100円ぐらいが相場のはずです。つまり、日本の円を800兆円に増やしたら1ドル200円ぐらいに、円安になるのです。円を増やすことは金融緩和をすることに等しいので、日銀が金融緩和をすると円安にな

る、お金を増やせば自国の通貨は安くなるというのが原理です。トランプさんは、このロジックまで完璧に理解したうえで言っているのです。これに対する切り返しは、「アメリカも金融緩和をすればいいでしょ」でお終いです。アメリカの失業率が、いくら金融緩和しても下がらないことを分かっているであえて言うのです。これ以上のひねりを加えるなら、政府紙幣の発行の話をします。アメリカでの金融緩和は、FRBに頼むためやりづらいのですが、アメリカ政府は、自分で政府紙幣を発行できる権能があり、大統領令でできます。歴代大統領だとリンカーン、ルーズベルト、ケネディーがやりました。私がもし交渉の参謀になったら、これをおつけます。「大統領令で自らドルを増やせば円高になる。ただ、リンカーンとケネディーは暗殺されたけどできるか」ぐらいの言い方をすれば、びびるでしょう。びびらせたら交渉は勝ちです。

常にはいい環境です。経済の話をする時に、政局の動き抜きで話をするというのは全くナンセンスです。国政選挙があると、政策のデパートが開きます。ここが一番重要で、何もないう時は官僚が何かにつぶされちゃうことが多いのですが、選挙公約でやるのなら、誰もつぶせません。今年の総選挙でどんな政策が出てくるかというと、国債をうまく使うという話が出てくると思いますが、赤字国債は何でも使えますが、建

トランプさんは非常に面白くて、政治家にはいい例になると思います。やり方の一つとしてあります。だからあまりトランプさんが馬鹿で、変なことを言っていると思わない方がよいです。

国内はどうかというと、今年は総選挙の確率が極めて高いです。天皇の譲位をクリアしないとやりにくいのは事実ですが、日程上いつでもできるようにしています。安倍さんの立場に立つと、相手が弱い時に総選挙をやりたいので今は非



設国債は、発行するに当たって資産性がないといけず、この資産性とは物にだけ着目しています。経済学から言うところの資産には物と人、両方あり、未来に投資と云っている時に、なんで物に限定されるのかと私は思うのです。「人への投資」を選挙の政策課題として打ち出すのではないかと思っています。

この間の二次補正で、「未来に投資したいんだけど財務省が財政再建とか色々言っているんだよ」と、安倍さんや菅官房長官から話があったので、財投債というアイデアを出しました。財投債は、プライマリーバランスの赤字にカウントしません。郵便貯金を集めてきて投資に回していた時には誰も赤字と言っていなかったのに、郵便貯金と同じような集め方している財投債を赤字にカウントするのはおかしいというロジックで財投債は赤字ではないのです。でも残念なことに、この財投債も物への投資だけで、教育、人への投資には使えません。

公共事業をやる時に、ピーバイシーが1を超えるかと言われるでしょう。人への投資の費用対効果は、大体2・5ぐらいあつて物への投資より人への投資の方がはるかに高い効率です。教育に投資することで、その人たちの学歴が上がり生涯所得が増えて、税金に返ってくるというロジックで、これは抗し難いです。自民党内でこの話が好きな人が増えつつあり、自民党東京都連会長、元文科大臣の下村博文さんは、教育の無償化とい

う話をしていきます。無償化をやるのは憲法でやるのが一番簡単で、義務教育は無償化になっていますから、「義務」を憲法改正で取るだけです。すると財源の話が出てきますから、教育は人への投資ということで国債でという話になるはずですが、しかし、すぐに財務省が財政再建だとか色々言ってきます。

政府の連結バランスシート

資産		負債	
資産	900	国債	1350
国債	350	銀行券	350
徴税権	750		

(資料)国の財務諸表(財務省)より筆者試算

国の財政状況は、バランスシートで見るとおかしいのですが、今から20年ぐらい前には財務省にもありませんでした。ないから作つてと言われ、日本で最初にこれを作りましたが、その時に、財務省(大蔵省)は適当に財政悪いと言っていることがわかりました。借金1,000兆円と言いますが、日本銀行というすごい優良子会社と一緒に合算した政府の連結バランスシートを見ると、これは負債の一部だけを言っているだけです。負債に「銀行券」というのが、400兆円程あるのですが、これは皆さんが持ちのお金のことです。一応借金の形をしています

けど、利払いも償還もないので、この銀行券は借金から取つていいのです。そうして資産・負債を見ると、ものすごい優良会社です。ちょっと国債出したぐらいではびくともしません。今のような金利がゼロの時に、国債を出して未来の投資をしなくていつするんですかという感じですが、ゼロ金利で費用対効果を計算すると、コストがほぼゼロですから、少しでも便益が出れば全部正当化できる状態です。今まで正当化できなかった公共投資も、ゼロ金利でしたらほとんど正当化できます。国交省は、今でも4%で計算しているので便益が4%以上ないと採択できないようになっていますが、これは間違いです。今の金利環境でしたら金利計算はゼロでやり、普通の公共事業も、さらには人への投資も正当化できる状況です。日本はこういうことをやってデフレから脱却した方がいいのです。

ノーベル経済学賞を取ったプリンストン大学のシムズ先生が、財政出動が必要、消費増税は間違っていたと言っているんですが、なぜか大手新聞では無視されています。不思議な国ですが、安倍さんがよく聞いてくれているのが救いです。

国内の情勢は予断を許さないところがありますが、今年の経済情勢を考えるとアメリカとの関係はそれほど悪くないので、日本国内をきちんとやれば、そんなに悪い年にはならないと思います。もちろんこれを生かすも殺すも政権の運営ですから、間違わないできちんとした金融緩和と、特に今年は財政出動をきちんとするというのであれば大丈夫です。

最初はトランプさんから入りましたが、私の最近の政策情勢という話でござ



高橋 洋一 嘉悦大学教授

略歴

- 1955年 東京都に生まれる。東京大学理学部数学科・経済学部経済学科卒業。博士(政策研究)。
- 1980年 大蔵省入省。理財局資金企画室長の後に、プリンストン大学客員研究員として留学。帰国後、小泉内閣において竹中平蔵大臣の補佐官、安倍内閣において内閣参事官を歴任。
- 2008年 財務省退官。金融庁顧問。『さらば財務省』で山本七平賞受賞。
- 2009年 政策シンクタンク「政策工房」を設立し、会長に就任。
- 2010年より現職。

プロフィール

元財務官僚で、気鋭の経済学者として知られている。『経済』『経営』にはびこるもったもなしの「俗論」「通説」を「明快に一刀両断する」として定評がある。

小泉内閣及び第一次安倍内閣においては改革の司令塔として郵政民営化・道路公団民営化・政策金融改革・公務員制度改革等を実現した。2007年には財務省が隠す国民の資産「埋蔵金」を公表し脚光を浴びた。増税する前にまず政府の無駄な出費を減らすことを主張する上げ潮派の論客。

主な著書

『財投改革の経済学』(東洋経済新報社)、『さらば財務省』(講談社)、『バランスシートで考えれば世界の仕組みがわかる』(光文社新書)、『この経済政策が日本を殺す』(扶桑社新書)、『官愚の国』(祥伝社)、『これからの日本経済の大問題がすっきり解ける本』(アスコム) など多数。

マイナンバーカードを活用した 住民サービスの向上と地域活性化について

山梨県総務部市町村課行政選挙担当
副主幹 廣瀬 充

1 はじめに

平成27年10月5日にマイナンバー法（「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」をいう）が施行され、平成28年1月からマイナンバーカードの発行が開始されました。

マイナンバーカードは、就職の際や報酬の支払いを受けた場合など、マイナンバーの申告が必要となる際、マイナンバーと本人を1枚のカードで証明できる唯一のカードであり、マイナンバー制度を支える重要な役割を果たしています。また、カードに搭載された電子証明書によって提供される公的個人認証サービス等が官民のサービスに

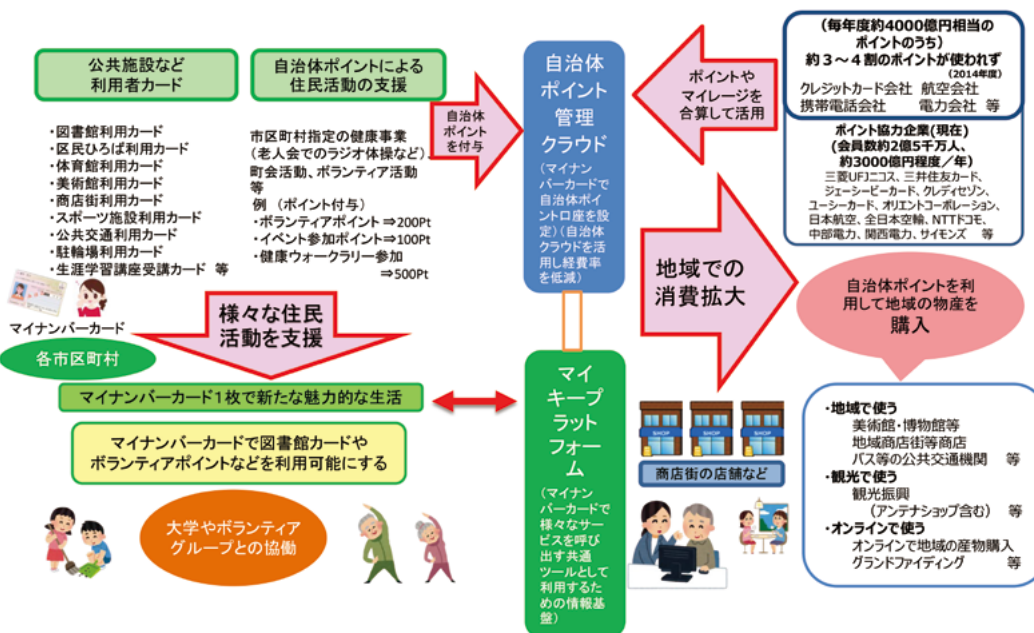
活用されることで、国民生活に密着した利便性の高いカードとなることが期待されています。

本稿では、国において平成28年12月22日に公表されたワンス・トップ・カードプロジェクトアクションプログラムのマイキープラットフォームの推進について説明します。

2 ワンス・トップ・カードプロジェクトの狙い

マイナンバーカードには、用途が法律や条例で定められた事務に限定した「マイナンバー」部分と、マイナンバーを使用せずに行政機関のみならず民間事業者も含めて幅広く利用が可能である「マイキー」部分（「公的個人認証機能による電子証明書」

マイナンバーカードを活用した 住民総活躍・地域の消費拡大サイクル構築プロジェクト ～マイキープラットフォーム構想の推進～



及び「ICチップの空き領域」が搭載されています。このマイキー部分を活かし、行政分野をはじめ、暮らしの中のさまざまなサービスでの利用を通じて、多くの方にマイナンバーカードの利便性を実感していただくことで、さらなるカードの普及促進を図ることをしています。

3 マイキープラットフォーム

マイナンバーカードのマイキーIDと図書館の貸出カードや商店街のポイントカードなどの利用者IDを紐づけることで、マイナンバーカード1枚あれば、さまざまな利用者カードとして活用することや、クレジットカードなどのポイントやマイレージを商店街での買い物やオンラインでの地域の産物購入などに活用できるようにするためのシステムです。

4 利用者のメリット

クレジットカード会社や航空

会社などのポイントやマイレージを保有している人が、各種ポイントやマイレージを合算して自分で選んだ全国の自治体のポイントに転換して多様な使途が可能となります。例えば、美術館・博物館等で利用料を支払うこと、地域の商店街等で買い物をする、オンラインで地域の産物を購入すること、観光先で施設入場料を支払うことやおみやげを購入することがサービス事例として考えられます。

5 自治体のメリット

自治体にとっては、クレジットカード会社や航空会社などのポイントやマイレージが自治体に転換された際、その精算金が各自治体に入金され、それぞれの自治体内で自治体ポイントとして使われることにより、民間資金が地域経済好循環拡大のための新たな財源として期待されます。

また、市町村が独自に各種ボランティアや介護支援、健康づくりなどの活動に付与している

ポイントをクレジットカード会社のポイント等と合わせて利用することで、経済効果という新たな効果を含めて地域の活性化につなげることが可能となります。

市町村における自治体ポイント付与事業は、介護支援活動、健康増進活動、環境活動、ボランティア活動、市民活動等、参加者に対してポイントを付与することで、自治体が掲げるさまざまな政策目標を実現するための手段として利用されています。参加者には、ちょっと得した感を得てもらいながら、介護予防、医療費軽減、地域活動への動機付けなどの効果が期待できるものです。

6 実証事業の展開

国では、平成29年9月25日から、全国各地の自治体で、実情に応じた実証事業を展開することとしています。できるだけ多くの自治体等が実証事業に参加できるよう、クラウド技術を活用して自治体などのシステム改

修の負担がないよう、国においてマイキープラットフォームと自治体ポイント管理クラウドを準備しています。

7 終わりに

マイキープラットフォームは、マイナンバーカード1枚で、さまざまなサービス利用が可能となり、また、自治体クラウドの推進による行政事務の低コスト化、さらに、民間資金の地域導入による地域経済の活性化を図るものです。

各市町村においては、マイキープラットフォームと自治体ポイント管理クラウドを活用したさまざまな住民サービス提供が可能であり、自治体ポイント付与事業を合わせることで、さらなる政策効果が期待できます。住民サービスの向上や行政事務の効率化、地域活性化につなげるよう、今後の本格実施に向けて、まずは実証事業への参加をお願いします。



引退競走馬の観光振興等への活用に向けて

主任研究員 相川 喜代弘(出向元 山梨県)

1 はじめに

政府主催の「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議(平成28年3月30日開催)」においては、観光を「地方創生」への切り札、GDP600兆円達成への成長戦略の柱と位置づけ、観光の基幹産業化と観光先進国に向けた新たな挑戦を促している。

とりわけ、「世界が訪れたい日本」に向けて、訪日外国人旅行者の誘客を図

るべく、「あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現」などの新たな観光ビジョン(施策概要)が示されている。

山梨県はその昔、朝廷の直轄牧場である「御牧」が置かれ、戦国最強とうたわれた武田騎馬隊などに伝わるように歴史的にも馬との関係性が深い地域である。また、北杜市には乗馬クラブが多く存在し、馬の飼育環境に適した標高1,000mの馬のまち小淵沢があり、また、清里高原にある「牧場通り」にはいくつかの牧場が点在する。

馬は山梨県にとって隠れた地域資源であり、国内外の観光客への新たな観光資源としての可能性が期待できるため、競馬を引退した競走馬(以下「引退馬」)の活用などについて考えてみることにした。

2 世界に誇る馬文化

近年、日本競馬は海外からの評価が高い。公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルによると、2015年の競馬の売り上げ(勝馬投票売上金)は、日本が第1位で約

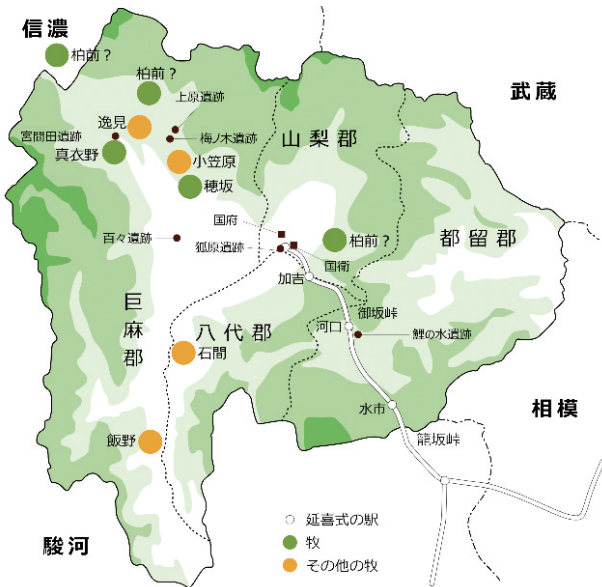
22,935百万ユーロ(1ユーロ約135円 換算で約3兆円)と突出しており、第2位が英国で約14,778百万ユーロ、第3位がオーストラリアで約14,554百万ユーロ、以下、香港、アメリカ、フランスが続いている。

また、日本のサラブレッドの生産頭数は約6850頭(2015年)で、アメリカ、オーストラリアなどに次いで世界第5位である。

サラブレッドは、その均整のとれた馬体や疾走する躍動感などからも非常に華やかであり、世界各地で競馬や乗馬が楽しまれていることから世界共通の観光資源と言える。

3 引退馬の観光資源としての可能性

日本中央競馬会(以下「JRA」)の資料によると、競馬ファンは全国に約400万人と推計されるが、引退馬の観光資源としての価値についてどう考えているのか、私が昨年6~7月に行ったアンケート調査(ウインズ石和、全国インターネット)によると、競馬ファンの約



出展:「甲斐の黒駒―歴史を動かした馬たち」

6割は、自分が応援した競走馬について引退後に会いに行きたいとの思いがあり、日帰り以上の旅程でも引退馬に会いに行きたいと回答した競馬ファンは約4割に上った。

また、交通費としては片道で多くても5千円未満、旅行費用としては全体で2万円以内との回答が多かった。

こうしたアンケートの結果や、わざわざ北海道までレンタカーや大型バスで引退馬に会いに行く競馬ファンも多いことから、引退馬は観光資源になり得ると思われる。

4 引退馬の活用に向けた現状と課題

ところで、引退馬は行方不明となるケースが多い。馬は経済動物という既成概念があり、馬主にとっては経済的利益を生まないという理由から、競走馬は引退後にその多くが処分される。

引退馬の活用に向けてはその確保が課題であり、関係者からのヒアリングによると、引退馬の余生の面倒をみる費用とキャパシティ（場所）の確保が課題との指摘があった。

ちなみに先の調査では、引退馬の余生を支援するための費用負担などについては、競馬ファンの約7割が、功労引退馬

の余生を支援するための基金（養老牧場）などの創設が必要であり、払戻金の一部をその費用に充てても良いとのアンケート結果が出ている。

5 まとめ

首都圏から電車や車でわずか2時間足らずで、高速道路を利用した場合でも片道5,000円程度で来訪できる山梨県北杜市に功労引退馬の観光（養老）牧場を設置した場合、多くの競馬ファンの来場が想定される。

また、欧米諸国においては、乗馬や競馬が文化として日常的に楽しまれていることから、こうした訪日観光客に対し功労引退馬を活用した観光誘客の可能性が期待できる。

一方、観光資源として評価できる引退馬も含めその余生の面倒をみる費用と場所の確保が出来ず、現状、多くの引退馬が廃用（処分）されているが、多くの競馬ファンから引退馬のために「払戻金の一部を使ってもかまわない」との声が聞かれることから、この声（資金）を馬の年金として活用するなどの検討が期待できる。これは、引退馬にとっても、競馬ファンにとっても、地域にとっても、更には馬主やJRAにとってもWIN・WINの関係となる。

引退したサラブレッドにセカンドキャリアを！サンクスホースプロジェクト



プロジェクトオーナー：岡山県吉備中央市

●馬の寿命は25～30年ありますが、サラブレッドのほとんどが4～6歳で競馬を引退するのをご存知でしょうか？

●引退したサラブレッドのセカンドキャリアを支援するサンクスホースプロジェクトは2年目に突入しました。現在は約30頭の引退サラブレッドをリトレーニングし、本国の乗馬育成施設や海外の馬主の人生をサポートしています。NPO法人吉備中央市サラブレッドプロジェクトは、サラブレッドの再トレーニング（リトレーニング）を専門に行う団体です。岡山県と吉備中央市両市の競馬場の中で、引退したサラブレッドは馬主の人生をサポートし、リトレーニングを実施しています。引退サラブレッドのリトレーニングには、飼育・健康管理・治療・人馬関係の改善の費用がかかります。2017年は4頭の引退したサラブレッドを救済する予定です。

●中核は競馬場からの支援により、新しい資金を確保したり、引退したサラブレッドの受け入れをさらに拡大していく予定です。乗馬場と競馬場を繋ぐこの取り組みは、さらなる支援をどうしようかと考えています。

ガバメントクラウドファンディング
ふるさとチョイス (<https://www.furusato-tax.jp/gcf/150>) 参照

近年、世界に誇る馬文化を目指して「Thanks Horse プロジェクト」などの、引退馬のキャリア支援を通じた引退後の環境をサポートする仕組みづくりが開始されており、岡山県吉備中央市はガバメントクラウドファンディング（自治体が行うクラウドファンディング）として、引退馬のサポートを行っている。

本県でも北杜市をはじめとして、引退馬の観光活用などへの様々な挑戦が待たれるところである。

この調査は平成28年度科学研究費助成事業 科学的研究費補助金（奨励研究） JSPS KAKENHI Grant Number JP 16H00035 の交付を受けて行ったものです。

市町村の

元気印

空前絶後の超絶怒涛の集団!! 我ら「なるさワッショイ!!」

なるさワッショイ!!

ワッショイボーイ 渡辺 尚樹

自治の風読者のみなさんはじめまして。僕たちは鳴沢村生まれ、鳴沢村育ちのメンバーで結成された「なるさワッショイ!!」です。団体結成の経緯は、毎月開催している貯金会（旅行無尽）の中で「なんも楽しいコトないなら、自分たちでやろう!」と酔った勢いで言い出し、盛り上がってしまったのが僕たちのスタートです。元々、今の生活に不満がある訳ではないですが、学生時代にあったイベントなどの行事にワクワクしていた日々がなくなっていくのが嫌だと心の奥底にあったのかもしれない。

鳴沢村は盆踊り、地域のお祭りなど一般的な行事は行われていますが、自分たちの世代（20代から30代）が気軽に行けるようなイベントはありませんでした。そこで、「なんでもいいから人が集まるイベントをやろう」というテーマの元、昨年7月に第一回のイベント鳴沢夏祭りを開催しました。何もかもが初めてのことで分からないことしかありませんでした。夏といえば夏祭りということで、元ホワイトベリーのヴォーカル前田さんを招待し赤字覚

僕たちのFacebookのページがありますので「なるさワッショイ!!」で検索してください。



初めて実施したイベント「鳴沢夏祭り」
前田さん、バックバンドのみなさんとなるさワッショイ!!のメンバー



村の子どもたちも一緒に「夏祭り」を歌いました

悟で挑んだ鳴沢夏祭りですが、思うような集客が望めず本当に赤字でした。ライブイベントで赤字を出すという笑えない状況になってしまいましたが、趣味にお金を使ったと思えばいい!というメンバー内での機転の利いた発想?で最初のピンチを乗り越えました。

普通に考えて赤字を出したらもうやりたくないと思いますが、当日来てくれた人たちからの「楽しかったよ」というなにげない一言や、「またなにかやってよ」と言われたこと、そしてなにより「自分たちが楽しかったこと」により心が折れずに、その後のイベントを行う事ができました。

僕たちも家庭を持つ年齢になり、子どもが楽しければ親も楽しいだろうという発想で「ハロウィン」は完全に子ども向けのイベントにしました。自分の子どもにハイクオリティーの仮装をさせる親の姿が印象に残っています。子どもたちもテンションが高く楽しそうでした。

「クリスマス」については近隣市町村で活動を行っている団体「ふらっとまるしえ」さんに出店の協力をしてもらい、ステージイベントでは富士吉田市のダンススクールに出演してもらうなどイベント感を出すように心がけました。村以外の人の協力もあり来場者数は過去最多を記録することができました。

「ハロウィン」「クリスマス」共に僕たち以外の団体に協力依頼を行いました。最初は、村の人に声をかけたのですが、鳴沢村は控えめな地域性なのか、なかやってくる人がおらず苦労しました。

原因は地域性ではなく、僕たちの認知度が低いことだと考えました。認知度を上げること、声をかけやすい近所のお兄さんのような雰囲気を出すことが僕たちの課題です。

僕たちは、元々しっかりしている同級生ではありません。むしろ、毎月開催している貯金会も開催されない月も多々あり、積み立てている貯金額も個人によって差が激しいです。こんな僕たちでもできるので正直誰でもできると思います。

最終的にはどういった団体にしたいのか？よく聞かれることがあります。このような活動を行うと、「村を変える！」という風に



ハロウィンでの様子

見られることもあります。僕たちはそのような意気込みはありません。「村が変わるきっかけになればいいな」ぐらいは思いますが、今のメンバーの人数で、その部分に重点を置いてしまうと活動を継続的に続けることが困難になるのではないかと思います。今後、協力者が増え、活動費に余裕ができた段階で自然と「村を元気にしよう」「鳴沢村を楽しい村にしよう」という流れになればいいと思います。現時点では「自分たちが楽しいと思えることをやる」という初めてのイベントで感じた部分を大切にしていきたいと思っています。

2017年は鳴沢村にないフェスを開催しようと現在計画中です。特技のある方、ない方も輝ける場所を僕たちは提供します。自薦、他薦問いません。興味のある方は連絡ください。

「なるさワッショイ!!」には普段の仕事では味わえない感動や達成感などの刺激、そして「人とのつながり」があります。僕たちが思うことは、メンバーを増やしたいこともそうですが、同じような団体が出てきてくれることを望んでいます。やってみたら意外と簡単です。バーベキューをするぐらいのノリで出来ます。

今後は地域、世代を越え活動していきたいと思っています。自治の風読者のみなさんはどうですか？一緒に山梨につむじ風ぐらい起こしましょう!!



クリスマスでの様子